

98 2/5 ~ 3/4

南アルプス 金山 縦走

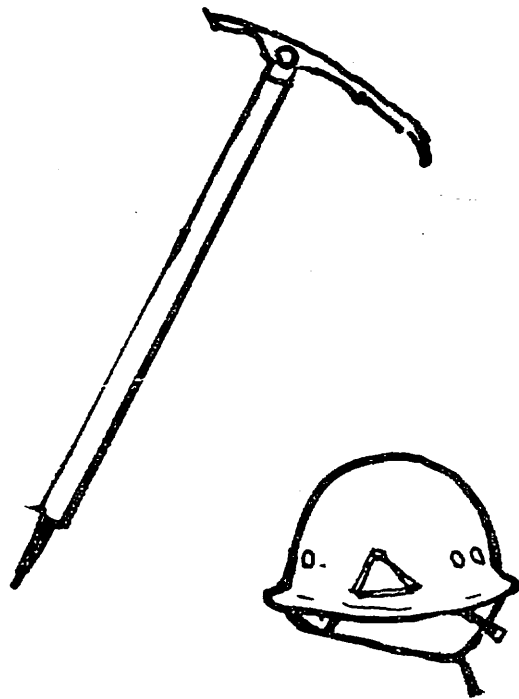
報告書

信天山会



もくじ

- ・はじめに
- ・行動記録
- ・係からの報告
- ・個人のことば(自由参加)

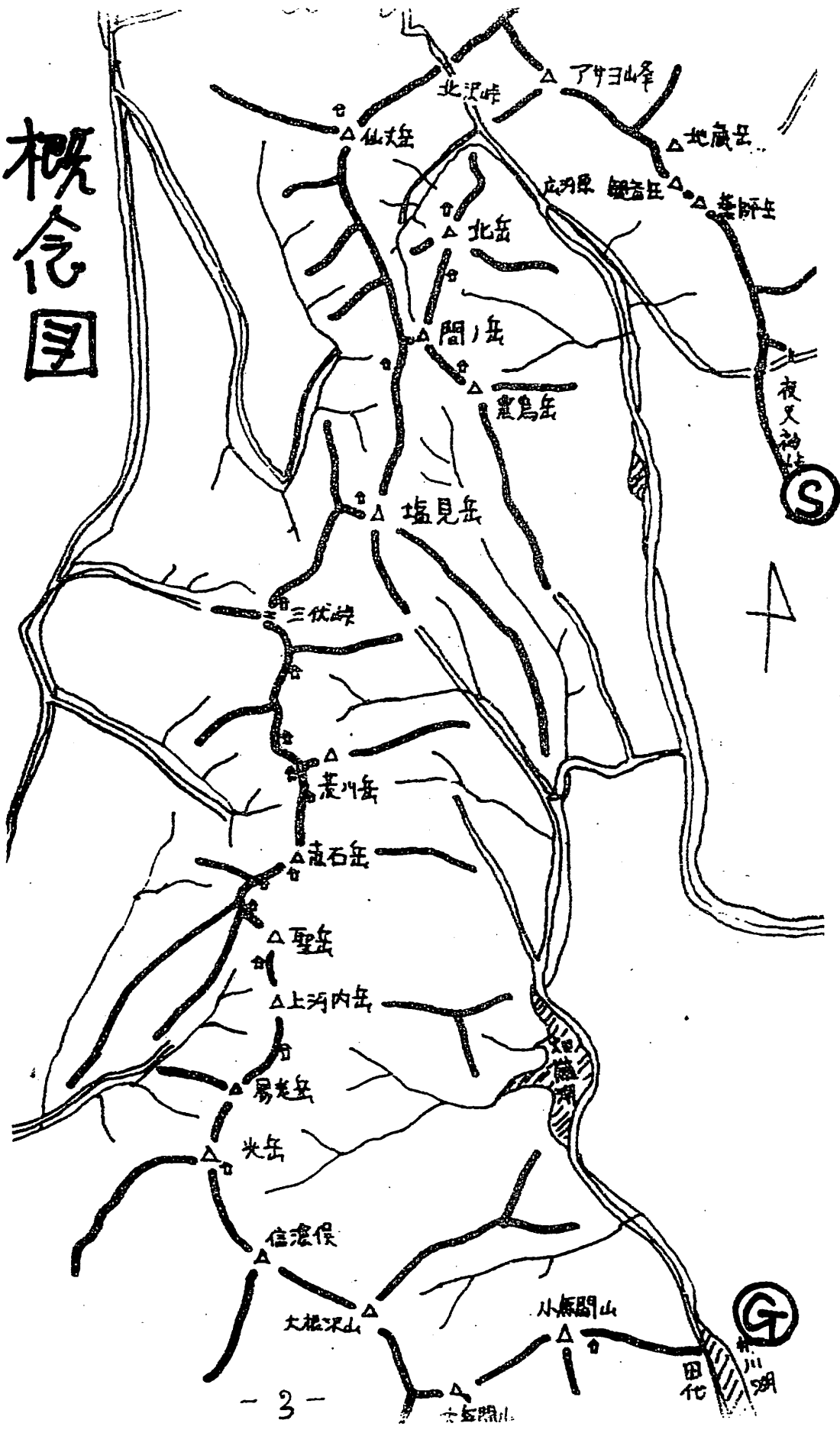


はじめに

南アルプスには人をひきつける何かがある。それは、北アルプスのように激しい。言ってみれば“動の山”の魁ではない。南アルプスの山々は限りなく雄偉で、いかどらしりと腰をおろして我々を迎えてくゆる。北アルプスとは全くの対照の“静の山”である。その南アルプスに我々信太山岳会は、2年続けて情熱を燃やした。昨年行った先岳へ北岳間の偵察行で自信をかけた我々は今年南アルプスの全山を完全トースするという事を9ヶ年度の目標とし、1年間頑張ってきた。実働25日、予備日14日、合計39日間という最近ではめずらしい長期の計画であった。しかし、計画を実行に移すと様々な問題が浮上り、我々を悩ませた。装備の重量や食料のカロリー計算、栄養を考えたエヤン、efc とか色々乗り越えては来たが成功はありえない。だが、実際は軽量化の失敗、思いがけなかった天候不良などの様々な問題が起こった。今日の縦走は一番の反省であるチームワークの欠けに対しては、物(装備や食料)の問題にはわりと早く気づき、会としてこの縦走を成功させようと思いを統一する機会を作ろうとした。それが、全山隊とそれ以外の隊の意識の違いを突き出し、良い結果に終わった。山行は全員が楽しめたわけではない。そういう意味では今回の山行は失敗であったと受け取れない。しかし、この縦走で学んだ事は良い事。思い草両方合わせてこそあるはずだ。それらをしっかりと思い出して今後の運営に役立てていきたい。

南アルプス全山縦走リーグ
花谷 泰広

概念図



メンバー

● 夜叉神 ~ 田代

花谷, 原田, 大木, 岸本

● 仙水 ~ 甲斐駒 ~ 下山

田中, 野田, 島, 日高, 山伏

● 三伏 ~ 易老渡

麦谷, 野田, 岡本

● 仙水 ~ 歩荷 ~ 乙水た人

川井, 中島, 深沢

● 三伏 ~ 歩荷 ~ 乙水た人

中島, 深沢 (途中竹"の"太め)

歩いて食ってクンして寝る。

野郎の

行動記録

2月5日 (第1日目)

<到着> 5:00	8:40	10:45	12:15	14:20
BCX (赤坂)	芦安村T.S	夜叉神森	夜叉神峠	杖立峠T.S
<出発> 5:10	9:00	11:00	12:30	(大崖頭山下) 〇

<概要>

車は芦安村の温泉街まで。そこから徒歩に上る。重いブーツをはいて歩く。夜叉神峠までほぼリトルスカープ。白根三山と眺めが素晴らしい。T.Sまではひたすら下り。サービス。

<感想: 花谷>

僕は今までいろいろT.S "入山日"を経験しているが、今回は今までよりT.Sの距離が短く、たまたま"全山トレース"の途中にあった。体調は良い。しかし、10kmほどには不安がある。今はとにかく歩き始める(かたがは、T.S)。

シヤに送ってもらった。「行ってらっしゃい」とシヤに手を振りぬくのほかに寂しい気がした。

今朝親に留年を知らせる手紙を投函した。「出し逃げ」とはこのことである。後がたいへんだが下山はいつになることやら…。
18:00 杖立峠 14:45

2月6日 (2日目)

4:30 起床	8:35	9:15	11:05
T.S	葦平	南御室小屋	薬師岳小屋T.S
6:45	8:45	9:25	12:00 帰天

<概要>

葦平までは先行10分ほど。トレースがめつた。そこから先は無事。南御室小屋は3層-階だが快適とうである。小屋から薬師岳までは急登で息が切れる。T.Sは薬師岳小屋付近? とでも良かった。ただ、雪にたかさん、石がまじっていて、三角布で通過しないうと、飲めずよい。

<感想>

この日の朝、レーンに入れるモチのタイミングのとて大木と少し似た記憶がある。今思えば全くくらなない出来事だが、その時は大真面目なため。

三角中を歩いたのは、前にもあとにもこの日だけだ。 岸本

2月7日 (3日目)

4:30 起床 6:35 7:15 9:00 11:20 13:40
 T.S ~ 新嶽 ~ 観音岳 ~ 地蔵岳(外) ~ 白蘆峠 ~ 早瀬根小屋
 6:25 O 6:45 O 7:30 O 9:10 O ⊙ T.S ⊙

<概要>

T.S から地蔵岳までは、吹雪でまじで時を足とられ、思っていた以上に時間がかかる。白蘆峠の下りは表面はクラストしているが、中はT.Sの雪で苦学する。樹林帯のラッセルは必ず下で符=問題ない。迷う所もない。

<感想>

二日とも朝のうちはよく晴れ。10センチ目の始めには御来光と朝焼けに染まる白根三山を見る事ができた。いい眺め。景色というものは、町でスゲー美人な女性を目にし、瞬く同じで、長らく忘れられないものになる。二日目の眺めはまさにそれだ。そんな人の感動をヨソに西の空にはあやしいな雲がどよどよと動いていたのも僕は忘れない。 岸本

2月8日 (4日目)

4:30 起床 12:05 13:20 14:50 15:20
 T.S ~ アサヨ山 ~ 栗沢岳 ~ 仙水峠 ~ 仙水小屋 T.S
 7:50 ⊗ 吹雪 吹雪 吹雪 吹雪

<概要>

T.S ~ アサヨ山間はルートファインディングに注意。基本的には直道通りがいい。稜線上は山梨側には雪痕のみで、下りまでが注意。この日は天気は悪く、T.Sのため、結構苦学した。仙水峠の下りも意外といやらしいので、刃を抜くことに。

<感想>

“二度と行かない”と思うにはうしろな一日だった。アサヨ山、本来は甲斐駒を眺める絶好のルートなのであろうが、我々がみたのはまたまた雪と重力方向を完全に無視した横なりの雪、そして雪崩(その中には花谷氏の姿も見かけられた)そして、押しつぶされそうな雪の急斜面だ。また耐えぬき、仲間と合流できてよかった。

2月9日 (5日)

4:30 起床

7:30 沈殿決定

<概要>

昨日からの大雪がヤブ。行動は無理と判断して沈殿する。

8:00くらいに仙水小屋に入ると雪の降り止み。小屋あり

がトイレを痛感した。そこで1人の男の人に会って、この元
此まで人に会わないとは...

<感想>

沈殿は腹が減って仕方がなかった。トイレを3回行って30分間

をまた。周りの人を見ても活動的有ることをしている人はいるが。

存んで沈殿はあんなに腹が減るのでしつうか。

岸本

2月10日

5:00 起床

8:00 沈殿決定

<概要>

2ツ玉低気圧の通過のため荒天となり行動不可能。

積雪は結構な量で、昨日までのトレスは全てこぼれ

と消えてしまった。明日以降雪崩には十分注意

が必要である。

<感想>

2沈が決定し、またも暇になる。昨日小屋に移ったのが唯一の救い。

これがトイレだった。どう思うと小屋の沈殿なんて幸せなだけだ。沈殿は、

なんといつても何もいらないのに山にいられるのだ。しかし、何もしないのに何故

か腹はまた減る一方なのだ。しかも2日... 昨夜の夕食はジャムと茶

とんなどものが腹にたまるか! 我々の空腹がMAXに達した時、最終手段として茶葉

を食べ始めた。レーション、風呂も行動中は一日かけて食べるのに何故か

沈殿では10分とたない。不思議だ。しかし、現実に残るのは空腹感の

嗚呼、誰か食物(いん)ちよーだー! 大木

2月11日 (7日目)

5:00 起床 6:50 8:30 11:10 12:50 14:10

T.S ~ 仙水峠 ~ 駒津峰 ~ 甲斐駒岳 ~ 駒津峰 ~ T.S

6:25 〇 〇 9:30 〇 11:45 〇 13:10 〇 〇

駒津峰 ~ 甲斐駒間 2カ所 FIX (FIX隊: 山内, 野田)

<概要>

縦走始末より開始して9人でアップルをする。とて急である。とてペースも非常に良い。駒津峰までは単調なアップル。とて甲斐駒おぼ昨日からの降雪で積もった斜面にFIXを張るは慎重に行動する。肘の力で弱層が出る。非常に危険な状態であった。1カ(T頂上)では手張らしい天気となり 気分が良かった。

<感想>

Fix隊と12 出た。技術的には212 難い所はなかたが17所 弱層ラストの際に穴を掘、213 際けに切れ落ち、じど、213, 1。 (野田 聡)

2月12日 (8日目)

5:00 起床 7:40 11:30

T.S ~ 北沢峠 ~ 大滝頭 T.S

6:40 〇 8:15 〇 〇 〇

<概要>

11:15 前半隊の出發、2日か来た。荷物とテントは北沢峠に向かう。峠からは急登と重荷、非常に悲惨な1日である。山内と山崎を別けて11:45 大滝頭へ。単調なアップル。天気が悪く、おぼには気温が高いため、全身がぶるぶるになった。(おぼは、前半隊は全員風邪気味で、明日以降どうなるのか、心配である。)

<感想>

この日の夜は寒冷前線の通過というともあって、荒れ模様だった。前半隊の人は何故か全員カゼをひいていて気の毒だった。遠くでカミナリの子音がもたらす、恐ろしい夜だった。

岸本

2月13日 (9日)

4:30 尾根 11:00 14:40
T.S ~ 仙丈岳 ~ 冬平T.S

7:30 0 11:30 0

<概要>

朝より早く出発準備はT.S中の前判隊の4名の体調は思わしくない
ので、急を考えた結果、4名全員下山した。非常に無念であり、T.Sは
思う所。ここから先の事を考えると正しい判断である。大滝の頭からT.Sは
登山隊4人だけに行き、小仙丈岳までは強固で何層もある雪が積り、
よく滑る。T.Sは、気温がぐんぐん上がり、そして雪がササクリになり、
大仙丈岳からは苦戦する。冬平でT.Sを済ませる。

<感想>

前判隊の人は無念だろうか! 下界でゆっくり休んでもらいたい。
今日は風が強く大変だった。日高から貸したマットがどこ
かに飛んでいってしまった。全日程で一番バテた日だった。

2月14日 (10日)

4:30 10:45
T.S ~ 横川岳北 T.S

6:50 0

<概要>

今日は天気は横川岳で行きたかったのだが、途中で雨が
降ってきたので途中で行動を止めた。今日は樹林帯で木は
下向きセルト(T.Sのみ)だった。倒木が多く、また、小さい木上
には全身が埋まったりして、とても怖い思いをした。
ルートは正しいが、赤テープがなくて間延しする事はT.S。
また、夏道を確実にたどった方が時間のロスが少なかった。

<感想>

日はバレンタインデー(♡)である。しかし俺達には関係ない。
しかもこの冬山で雨である。テント内の水たまりが悲しい。

<今日の結論> この雨は俺達の涙のよけに全てを濡らし尽くす
18:40 バカ尾根上T.S ほうだ

2月15日 (11日目)

4:45起床

8:40

10:30

13:55

T.S ~ 横川岳 ~ 野郎川越 ~ 2699m標高迄下T.S

8:10

⊗

⊗

⊗

⊙

<概要>

天気・Xコンビの体調共に最悪だが、行動することにした。
横川岳のピークまでは倒木が多いため、夏道をたどれば問題ない。
また、このピークからは急に「フキソウ」が目立つようになり、快調
なペースで歩くことができた。昨日同様頭まで雪にまぐって(ま
う場面は多いため、全体的に何の問題もない。

<感想>

60°ぐらいの急登を鬼おじしかりしなにかテニ場を見つかる。昨日の雨の為
我々の疲労は激しかった。しかし、テントを張ると、突然晴れてきた。2日
ぶりの太陽である。必死に乾かそうとしたが、実は気温は低く、逆に凍り
ました。そして我々はあの夜、鬼のような寒さも味わうことになるのであった。

2月16日 (12日目)

大木

4:45起床

12:00

13:10

14:20

14:30

T.S ~ 三峰岳 ~ 間の岳 ~ 中白根岳 ~ 北岳山荘

7:20

○

○

○

○

○

<概要>

ついに10尾根を抜ける日である。朝起きると全ての物が
凍りついてた。シュラフカバーまでバリバリになって(ま、T.S。樹林
帯を抜けると、まだまだラッセルが続き、トランプを3年程の2人のみで
歩いたため、バテた。三峰岳頂下は思ったほどヤバい所ではなかった。
間の岳までが長く、とびつろいだ。北岳山荘でエーゼンを12.3と
日大の山岳部が来た。彼らは池山帯尾根を8月かけて北岳まで昇った。

<感想>

上の<概要>にもある通り、とにか朝が寒かった。バルンタイニーに雨で濡れていた
ものが、とととと凍って、むしむしもろかった。「この野郎」を連発しながら準備をした。
夜、外にシンプーを出たら、町のネオンが見えて、小屋に戻ると日大の人が、昔の長
い間」をラジオに合わせて歌っていて、一人せむい気分になってしまった。岸本

2月17日 (13日)

4:30 起床 沈殿

<概要>

荒天(ホワイトアウト)が沈殿。

昨日の予想通り荒天となった。しかも非常に悪れた。風が小屋にぶつかり「ドーン」といって地響きがする。外で小便をするのが一苦勞だった。目眩の荒天中、一時は狂気かと思える行動を起し(テープを引返して来た。久々の小屋である。大変良い保養日となった。

<感想>

沈殿する前は久しぶりである。僕は基本的に沈殿を「女子」で「おで、今日のように小屋で風の音を聞きながら本読をいのはなかなか良い。夜に久々に思いっきりストレッチした。全身が伸びて非常に気持ちよかった。

2月18日 (14日)

4:30起床 8:30 11:20 12:05 14:40

T.S ~ 北岳レストン ~ 間の岳 ~ 農鳥山荘前T.S ~ 農鳥レストン

7:40 8:40 〇 12:25 〇 (16:00帰天) 〇

<概要>

相変わらず「風は強い」が出発する。北岳までは夏道通り。山頂には2週間前と同じように立ったスキー山岳部からマヤカシなプレゼントがある。ほとんど休憩をとらず南下する。間の岳を通過し農鳥小屋へ。しかし冬期小屋は埋まっていた。テントを張る。期待していた計に残念だ。農鳥岳へは一部岩場は出るものの、単調な稜線歩きである。ほぼ夏道通りである。農鳥から見る富岳は素晴らしい。ついでに昨日

<感想>

大木から借りている『幕末』はおもしろい。どんどん読んでいきたい。
6:30 北岳山荘(待機中)

今日はなんかじやねーけど北岳だの農鳥だので長い一日だった。けつに疲れた。もう寝る。19:30 農鳥小屋前TS はらた

2月19日 (15日目)

4:30 起床 7:50 8:35 10:00

T.S ~ 間の岳 ~ 三峰岳 ~ 熊平小屋

6:30 ⊕ 8:10 ⊕ 8:45 ⊕

⊕

〈概要〉

何とか天気が持ってくれた。というより、良い方に予報がはずれた。昨日下T=間の岳への登り、標高差400mを登る。暑くてつらかった。間の岳は3回目である。今回は中々写真撮って休んだ。良いピーである。熊平小屋まではずっと下りなので楽である。小屋で昨日と同じように全ての物(者)を干した。

〈感想〉

三度目の間の岳を越え、10時に熊平小屋に着く。ほとんど沈殿に近い。幸せな一日となる。小屋は快適なもので、ベンチが板に物を並べ、日光で消毒した。もう水がくわい不潔になっている4人であった。我々のターゲットはすでに塩見岳になっている。前半ももう少し終わろうとしている。 大木

2月20日 (16日目)

4:30 起床 7:10 10:40 10:50

T.S ~ 新砲抜山 ~ 北荒川岳 ~ 北荒川岳南T.S

6:30 ⊕ 8:10 ⊕ 8:45 ⊕ 10:50 ⊕

〈概要〉

午前中は天気がちろちろなので急いで出発する。一度井川越にまで行って稜線Eを歩く。やや風が吹いているが問題ない。北荒川岳直下で悪天にかかる。これ以上悪化する前にT.Sを見つけ、テントをたてたので、夏もT.Sにはなっている北荒川岳のすぐ南側にテントをたて、ちくちく入った。

〈感想〉

巾着がに下り坂の天気だった。早々に行動を終わったので、4人で整地とブロック作りを熱中した。スノーソーを途中で使ったので、スコップでうまき切れ目を入れてブロックを作った。仲々立派な壁ができた所で一同満足し、記念写真を取ってテントに入る。前半最後の夜は雪だった。三伏のテポポが楽しんで次の日のモチベーションが高まった。 岸本

2月21日 (17日 日)

06:00 起床	10:45	13:00	14:20	15:20
T.S ~	塩見岳 ~	雁衛門山 ~	本谷山 ~	三伏峠小屋
0:15 @	11:10 @	@	@	@

<概要>

天気図では天気が悪そうでおまけにラジオもそのような事を言っていたのに山の上だけ良い天気になった。こんな天気は初めての経験である。急いで出発。塩見岳までは3000mの稜線であるにもかかわらず膝までぐっで苦戦した。核心部の下りは慎重にルートファインディングをして無難に通過。三伏峠までは雁衛門山を経てあと尾根通した。三伏峠でホカウまった。

<感想>

まさか今日晴れるやんて思わなかった。朝4:30に一度走ったか"天気が悪か、下のもう一度寝ると"と走ったら晴れていた。下界はいいけど天気が悪そうだった。テボの味に生きる喜びを感じた。

2月22日 (18日 日)

況殿

果敢はすの後半隊がや、て来ず"行動できなからた。素張らしい天気なのに……。三伏峠小屋の前でマシトをひろげて本を読む。彼らに何かあったのだろうか……。不安になってきた。せめてここまで来たのに。もう半分以上あきらめた頃、後半隊がや、て来た。思わす駆け下りてはまった。昨日下界では雨で行動できなからたらしい。とてかく良かった。

<感想>

下から上までず〜とず〜と歩荷だった。だから何から? だから歩荷だったのよ。

僕が思、てたのはこの山行は事前の話し合いがほとんどなくて「え〜と君たちは登山隊ではないので、はあくまでも歯車なんに"よね、だからそのはん割リ切、てくれたまんあ、それとはほとんど合席同然だから」という言葉が聞けなくて終始歯車の中い山行だった。(野田

2月23日 (19日目)

4:30 起床 8:15 9:40 16:35

T.S ~ 鳥帽子岳 ~ 小河内岳 ~ 高山裏避難小屋

6:45 〇 〇 〇 ①

<概要>

後半隊の深沢はアプローチの時に二けて頭を強打したので下訂させた。中島が上から下までお陰で本隊には何の影響もなく助かった。やがて南下である。荷は重いが半日を越えたので精神的に楽である。しかし、後半隊は昨日の荷上げの疲れのせいか若干バテていた。仕方ないだろう。高山裏に着いた時すでに天気が悪くなり始めていた。

<感想>

三休で合流した後半隊は、19日からものすごい勢いでレーゾンめしをバクバク登山隊にバクバク。三休までのホッパで腰を痛め高山裏に着く頃にはもうバテバテ。これから先か思いやられる。^{おと}

2月24日 (20日目)

5:00 起床 11:30 15:50 16:35

T.S ~ ルンヤットバス地点 ~ 前岳 ~ 中岳小屋

7:15 ② ②~③ 吹雪 吹雪

<概要>

後半隊のメンバーが疲れているのは分かってはいたが先に進む事にする。今日中岳小屋まで行かないと天候の都合上沈む層は厚い。なからだ。アキングに徒らに進んでいったが途中で見失う。おつをこくようにしてルンヤットバス地点を探す。はずつとバスして行く。ついに悪天にかまると。前岳に着く頃には激しい吹雪になってしまった。岡本がほとんど歩けないう状態になりペースも落ちる。全身が凍りつく頃中岳小屋に逃げ込む。この日だった。

<感想>

この日は下界での運動不足と入山3日目ということもあり疲れがピークに達していた。午後から樹林帯を抜けると長かおれまて 甚だ地獄なようだった。岡本、

2月25日 (21日目)

2:00 起床 天候吹雪 沈殿

今日は晴れても休養にしようとして新月から決まっていたが、
天気が悪く、絶対の沈殿日和となった。寒い中岳小屋で
皆それぞれの方法で時間をつぶす。昨日までのハードな
スリッパのせいでたいぶん疲れたが、まあいいから、ニ
ニニして疲れたがとしようである。周りを回復し、明日以降は
とりあえず安心だ。

<感想>

とにかく昨日までは大変だった。それだけに今日の沈殿は
天国である。中岳小屋はどんなにいい小屋ではないが、それ
でも休むには十分である。午前中は本を読みながら空腹を
まぎらわしたが午後になって隠しレーションを食いまくった。
寒い1日だった。

2月26日 (22日目)

5:00 起床 天候不良(ホワイアウト)の為、一時待機

9:30 沈殿決定

完全にホワイアウトしてしまった。行動なんて絶対に
不可能な天気である。昨夜妻各が突然の頭痛
に苦しんでいた。彼は死んでしまうのではと思うくらい激
しかった。今日で2沈である。今回の縦走では2回目だ
が、マズカには2沈とかな子とや子事かたかな。てきてCPで
ある。回し読みしていた本もだんだんかなってきた...

<感想>

沈殿2日目。まだまだキレるには早い。外はあい変れらざる
ホワイアウトである。

幕の次は高田宏の『木に会う』(花谷に借りた)を読み
始める。暗い小屋の中で読むのはたいへん。 9:00

明日がどんな天気だろうと(そんなに悪くないほう)俺達ほできるこ
とを祈るが。今は時を待つのみ。18:00 中岳小屋 はりだ

2月27日 (23日目)

4:30 起床 8:30 10:00 13:05 15:40

T.S ~ 悪沢岳 ~ T.S ~ 大聖手平 ~ 赤石岳
6:35 FIX隊 8:45 11:00 FIX隊 13:15 15:45 遊鞋小屋Aの
7:00 本隊 11:05 本隊

<概要>

ようやく晴れた。しかし積雪は相当な量で、場所によっては雪崩が起きておかしくない。中岳-東岳間のコル付近にはアイスリッジがあり、緊張させられる。東岳にヒリついてしばらく登った所でLPFIX。上部ルンゼのウラス中に雪崩した。赤石岳へは尾根赤い冬道を使う。特に問題となる場所はない。小赤石岳付近の雪痕がすく大知った。小屋は相変わらず快適だ。

<感想>

“夢。3沈ならず”であたが荒川岳、南ア主峰赤石岳を1日で登れた。荒川山頂ではまゆ毛が凍り、まゆ毛も凍った。せも赤石岳山頂の小屋は快適なもの。今夜はよく眠れそうである。 大木

2月28日 (24日目)

4:00 起床 8:00 10:00 12:10

T.S ~ 百間平のコレ ~ 大沢岳 ~ 鬼岳
5:55 FIX隊 8:00 10:00 12:10 遊鞋小屋
6:05 本隊

<概要>

偵察隊を出し、百間平までの下降路を確かす。夏道より尾根をほぼ人で北側ルンゼ、ほぼ所を下る。フラスとして雪崩の心配はない。大沢岳・中盛丸山・そして鬼岳までは小丁寧な山だったがUP&downが大げさに感じ、疲れる。小屋の入口が埋まっていたので掘り出し、中にテントを子長る。

<感想>

この日の天気はあまり良くなかった。前日の予報でこの日は、着雪が訪れると聞いて、11つの間にかそんな時期になったのかと、しみじみ思った記憶がある。それと朝の準備の時、大木のスコップでOコがつかっていて大爆笑した。用足しの際にO本が使ってつけてしまったらしい。本隊の名譽の為、実名は伏せておくが、本当に笑わせてくれた事件だった。山の上では色々ことが起きる。 岸本

3月1日 (25日)

5:00 起床 天候 7:50 沈殿決定
聖岳～聖岳はこの縦走でも1,2を争う核心なので
晴れた日に行動したい。今日は吹雪で行動不可能
沈殿とした。小屋が狭いので快適な沈殿とは言い難い
が、風はしのげるのでだいぶ楽だ。文化放送のラジオ
番組が今でも頭の中に残っている……

<感想>

今日は沈殿。雪がしんしんいや、ぼーぼー降ったり吹いたりして
ます。明日のラッセルを思い浮かべつつ少々のうっになりながら
ぼ～っと日をすごす。今回の山行では絶対的なトレーニング不足
で毎日がいらいら。沈殿は体の潤滑剤だ。

雪が止んだ後に他のテントから、ごくろーまよと出された汁物
を「余ったやつを食わせる気かー」といってもらった人間的に
ゆるされざる発言だった。アライテントの人ゴメンなさい。(野田)

3月2日 (26日)

4:00 7:35 11:10 15:40
下5 ～ エル ～ 聖岳 ～ 聖平小屋
0:05 6:40 11:45 ①

<概要>

エルまではタイフリッジになっている所が10所あり、そこを
FIXした。エルからは3PのFIXを出した。やはりここは
核心者である。雪のつき方も嫌だった。また、聖岳が大
きすぎてないから太陽が出てきてくれたので大変寒かった。
聖岳のピークには大量の雪が積もっていた。下降中アイ
ゼンダングャでできて怖かった。聖平小屋は快適な小屋
である。

<感想>

昨夜までの天候とは違ってかろうど快晴。朝日に赤く染まる
赤石岳が beautiful。聖岳への登りはきつかったがピークに着く
後半隊の最後の山、易渡岳、全山隊の最後の山、大無間、小無間
がて見える。聖平へは下山ロードが早くもすくわつー。おぎや

3月3日 (27日目)

4:00起床 9:05 11:10 14:05

T.S ~ 上河内岳 ~ 茶臼岳 ~ 易老岳 T.S

6:00 O 9:15 O 11:20 O O

<概要>

上河内岳でピークらしいピークは終わる。上河内を越えるまでは気を抜けない。茶臼を経て希望峰まで来るとそこいらすと杉林帯である。ここはT.Sに予定足であったが、時間があったので易老岳まで進む。昨年倒木で凶悪なT.S区間も今年は大雪で、T.Sで問題なく進むことができた。

<感想>

天気もよく、最後の森林限界のピーク上河内岳を通るのあとなかなか快適だった。行動予定は茶臼岳近かT.Sまでだが、易老岳まで行きました。 岡本

3月4日 (28日目)

4:00起床 8:55 9:15 10:55 13:00

T.S ~ イザルカ岳 ~ 光小屋 ~ 光岳 ~ 光小屋

6:20 O 9:00 O 10:40 O 11:45 O O

<概要>

後半隊3人と別れ、また金山隊4人の旅が始まった。昨日同様雪が多くて逆ラッセルが楽だった。夏道通りを歩く。イザルカ岳もピークした。光小屋は本当に快適な小屋である。甲斐駒からここを単独で歩いてきた人の記録(冬期)を見ると、T.Sから取っかしくなった。ここからは未知の世界である。期待と不安が入り混じっている。それなのに光岳のピークはやがて静かだった。

<感想>

ついに光岳に何かう。ここまで来た途中下山はない。行くだけなので、引き返す気など走らないだろう。この縦走を完全にトーストしてここまで来たのだ。もう最後までやるしかない。頑張るぞ!!

3月5日 (29日)

4:00

7:30

11:05

14:30

下ノ ~ 百俣沢の頭 ~ 信濃俣 ~ 大根沢山下(93標高点)

6:00 ⊙

⊙

⊗

⊗

<概要>

百俣沢の頭までは少し迷いや辛い地形なので要注意。いつもコンパスと地図で確認しながら歩かなければならぬ。信濃俣に向かう尾根はやや歩いてしんどい。途中で花谷が滑り、顔面を強打する。凍っているのでにも注意が必要。信濃俣からは突然、岩場が出てきたりなど気が抜けない。悪天候時はレインウェアに十分注意すること。

<感想>

オリンピックを少しも見るのできなかった我々4名は、何としても19オリーブまでと思っていたがその願いはかならず開会式をおかしてやった。今日のルートが難し おもしろかった。早く下山したい。 大木

3月6日 (30日)

5:00

11:25

15:45

17:55

下ノ ~ 大根沢山 ~ 2150m J.P. ~ 大無間山山頂下ノ

2:00 ⊙

15:55 ⊗

⊗

<概要>

大根沢山の登りはおそろしく辛かった。本当は長かった。また、そこから花も果してなく長かった。今日は気持ちよく大無間山まで行ってピークでテントを張ろうと決めていたので、旨頑張った。頑張った甲斐あって何とか暗くなる前には下ノに着いた。このコースは何よりも体力、そして忍耐力が必要である。正気では歩けない。ヤブコウラセルである。

<感想>

下山パワー炸裂!! この日の行動はとて存感じた。カマエギツフラセルをして、突然現れるナイフリッジを渡り、ワカントだったダマを滑りながら前へ前へと歩いた。僕が先岳から大無間の間を歩いていていつも思ったのは、世の中物好きがいるんだなあ。という、敬服の念に似た思いだった。

岸本

3月7日 (31日目)

6:00起床 11:00 13:45 15:40
 下5 ~ 小無間山 ~ 小無間小屋 ~ 田代
 8:20 ⊗ 11:20 ⊙ 14:05 ⊙ ⊙

<概要>

いよいよこの長き山旅の最終日を迎える事ができました。うれし
 と寂しいの入り混じった変な感じである。小無間山までは
 単調なルートだ。ずと尾根上を歩けば良い。今日の核
 心は鋸歯である。しかし、事前の地域研究で予想して
 いた程厳しくなく、FIXロープは使用しなかった。しかし、所
 難所はあるのでロープの量次第ではロープは必要だろう。
 鋸歯を抜けた所が小無間小屋である。この小屋は焚火
 ができてとても良さそうだった。あとはひたすら下るのみである。
 途中から雪が消え、だんだんと民家や近づく。皆
 顔がゆずんで来る。待ちに待った瞬間である。我々が山に
 いる間下界では様々な事が起った。リベックが来た。
 しかし我々のこの南アルプス全山縦走に全てを賭けてきて
 が今全山トレスという最良の終り方をした。南アルプス
 じゃあ、いかに。

<感想>

小無間の下りで突然雪が消えた。青々とした照葉樹が頭
 上を覆っている。冬山からいきなり夏山へ移行し出されたようだ。
 カマツウ深いグリーンばかり見えた目にその淡い青はまぶしかった。^{16:00} 田代

この長い縦走の終わった達成感よりも、人の優しさに涙がほろ
 ろに下る。観水荘の主人はもの静かにウイスキーの氷割りを飲み
 ながら「これがオレの道楽だから」とつぶやいている。陽気でお
 しゃべりな女将さんは自分が聖に落ちたときの話をする。どちら
 信じておられるかわからない。オレ達のクサさは予想以上だったはず。
 なのにいやな顔ひとつしないで泊めてくれた。この思にむくむく
 今では思いがたかい。いまはまだ感謝感謝。春の日の夢のけいけい
 事だった。 20:50 観水荘離れ(井川) ほらだ。

前半隊入山の記録

2/2 前半隊メンバー(田中、野田、島、日高)に加え
山内 歩荷メンバーとして中島、川井、深沢が2/2のみ入山

北沢峠までほぼ問題なく歩いた
14:00に大手山荘で歩荷メンバーと別れ、前半隊は山内と
ダブル歩荷を担い島と日高はつらそうだった。

2/8 北沢峠下Sより、仙北小屋までゆく。天気は吹雪であり、
金山隊は凍死しているが3-と言いつながら歩き。
10:00に仙北小屋付近にテントを張る。
午後おやつを作って11:30"あらよ"とコールがあり
この吹雪の中をよく来たなあともみなで感心する。
寒い日だった。

3/3 前半隊全員カゼをひき、金山隊の為に思い
前半隊下山をすることにする。島がわかんに慣れず
"つもはずれた"とずらした11して"おんまへん"を連発
していた。北沢峠から毛根洞に下り、と思っていた
が雪がくまりにくさって歩いて歩まざらかった。テント
が出来て11で"おんまへん"だった。
下山後、中島の"NEWガレタム"がなかなかいい。
もう泊まるか? などと言った。
17:00ごろにガレタムを来ておは車上の人となる。

春休みに入り学校もなく、自転車もろくに漕がない
なっていた体にむしり、りの荷物も重く、これが原因で
か無性に不安に思えた。歩きはじめるとすぐに不安は
現実のものとなった。体力がかなりおちていた。長く思え
てしかたがなかった。17時、4時におわり塩川小屋につく
ころにはすでにハット、ウエグが必要存分と暗くなって
いた。小屋にころかり込み、ザックもあうさおりに倒れ
たまま、しばらく呼吸をととのえた。ローソクが灯され、
落ちて着いてくるとつれ、とても良い小屋だ"ということが分
かった。広くて荷物を整理して置いていいというのがうれし
かった。初日のつかれも手伝ってその日はぐらぐら眠った。

次の日、また暗いうちに起きて朝食をとった。昨日の
疲れはこのころにたかかったが、荷物は相変わらず重か
った。塩川沿いに2ピ、4時に行くと三伏峠に向け
ての急な登りに入る。前日まで少し気温が高く、雨
も降っていたためか、登りはじめのあたりでは雪が融け、
透朗な氷になっていた。ちっと見には地面と区別がつか
ない。しかも僕はメガネをはかして歩いてきた。土の上に置いた
と思っただけが、ガラスをくわした体はザックの重みで
加速され、今足がふたつところへ頭から突込んだ。手を出す
ヒマもなかった。頭が痛くて数秒動けなかったが
その間に下はムクムクと腫れあがり、熱くなった。
雪をみつかみとして冷やすと雪は淡いオレンジに染まった。
自分で行けなくなったと判断し、その日の行動を続行した
が、打ったのが頭だけに自分で不安だった。ペースも相当
落ちたと思うが、また明るいうちに三伏峠に着くことか
でいた。沸かしてくれたお茶がとてもうまかった。

クバー、麦谷 野田、岡本

No.

3/4

4:00 起

後半陽<下山時の予<

6:30 飛

7:10 休

8:00 休 面平

8:40 易老渡

体験

易老岳を登って 10分くらいでちょっと危険な場所があったか。以後は 歩き出したトレースが迷うことになった。

感想

下山パワーが衰えた。夏のユースタイムの半分で降った。

易老渡からほうまへ下った。

予定では林道を民家まで歩いたら歩いてそこで電話をかけて中島さんから川井さんに来てもらうはずだった。(これだと民家まで行くのに何時間かかるか……だった)

実際は林道を1時間ほど歩くと大規模な工事をやっていた。トラックがはしはし走っていた。そのうち1台が親切にも乗せてくれて近隣のバス停までおろしてもらった。このバスはなんと5時間に1本しかない。10分ほど待ったらバスが来た。バスは飯田まで行くらしく、とりあえず飯田まで行くことにした。バスに乗る前に川井さんに電話してたおかげで飯田で20分ほどまると中島さんから来た。伊那でお風呂に入っておいしいめしをくらって最高の下山日だった。

岡本

係から

の報告

※上三文字の報告は書きと入り
まじり込みがわかって右のようになりました。

装備報告

以下、今回の縦走で冬山で実際有効だと感じた事

- プロレキに使用する夕は半分で十分使える
- ☆ ◦ MSRの予備について、ボトルは燃え尽きたので、ボトルの予備は必要ない。ハードだけ持って行けば良い
- 自カスは平均して1人1日約100mlだった。(しかし、突然の雨や湿雪でヤットが濡れて、それを乾かした時のために空だき用の自カスやあそびと便利)
- TTポールについては今まで通りだと良くない。くりに折れたりするのでもっと頑丈な物を用意する必要がある
- ☆ ◦ ビーコンの使用について
 1. 電池はリチウムイオンのウルトラアピカリが良い(寒に強い)
 2. ボトルに入ったら、危険が無いと判断したらすぐリスイッチを切る。そしてヤットのボットに入れる
 以上を徹底するだけで30日間電池は交換しなくて大丈夫だった。(しかし予備電池は必ず持って行くこと)
- とうとうは“米屋さん”に売っている日本製のローソクが良い。明るくて使いやすい。多めにあつた方が良い→電池の節約

☆ についてはとても役立つと思われるので参考にしておきたい。

<反省>

軽量化には成功したが、もっと軽くしようと思えば、自カスを削ったりしたら何かになる。長期の縦走では軽量化が大いだが、ある程度余裕を持たせておく精神的に良い。竹ポールは質が悪すぎた。全然役に立たなかった。あのラジオの使用には注意しなければならない。特にエマソン中は注意すること。

エッセンの 反省と感想

ほうだ りほうけ

①計画

今回のようにメンバーが入れかわり立ちかわりという場合、同じ人数で動く区間ごとに食糧計画を立てるのがとても早い。

②メニューなど

同じようなメニューばかりだったのにもかわらざるうちに飽きが悪かったのはやっぱり、アメリカンがバラエティーに富んでいたからだろう。朝、晩のお茶やおやつはもっと種類が欲しかった。

③レーション・風めし

前半は少しチ、二百円ショップのものばかり使っていて、おごに飽きてしまった。いくら吸収がいいとしてもバター飴ばかりじゃあ……。

④デポについて

今回はコンバイン袋に入れて三伏小屋に置いておいたのが、缶などのしっかりしたものに入れておけばよかったと思う。三伏を目指している時も、(オランダのような)性悪大学生に喰われていないか、ネズミに喰われていないかに心配で心配で、おがよかった。(結局我々の敵は後者だった。)

それから、デポに向かいのものもきせておくとその先の行動にはずおがついていい。(今回は焼豚、モツ、チョコ、7-11缶などを特別にデポした。)

⑤総括

日程や人数が変わっても、大縦走のエッセンは通常エッセンと基本は同じ。頭を打つてやれば、できなりことはない。面倒くさいけど……。

会計報告

大木 B 信介

○ 収入 ... 51万円
 (金山隊 野田 6万)
 (前半隊 後半隊 3万)

○ 出費 ... 36万 6967円
 (装備 12万 5275円 その他 6800円)
 (食糧 23万 3512円)

○ 残金 ... 14万 3033円
 (実際 14万 2235円 → 798円不足)

金山隊	39日 × 4人	→ 156
野田	31日 × 1人	→ 31
前半隊	16日 × 5人	→ 80
後半隊	17日 × 4人	→ 68
	↓	計 335

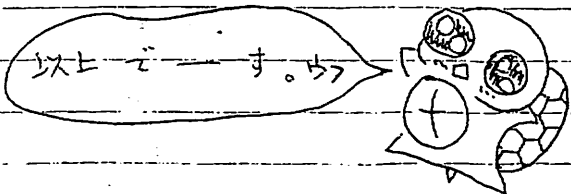
出費 OK
 $36万 6967 \div 335 = 1095.9$

一人一日あたり 1100円 計算

(予備日 370-4を含ま)

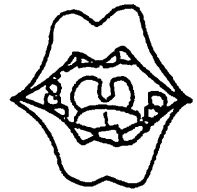
結果

金山隊 ...	42900円	返金 ...	17100円
野田 ...	34100円	...	25900円
前半隊 ...	17600円	...	12400円
後半隊 ...	18700円	...	11300円



個人の

ことば(自由参加)



大人になりたかったんじゃない。
男になりたかったんだけ。

反省と感想

花谷 泰広

〈反省〉

1. チーム作りの失敗
2. リーダーシップの下平下。

1. 2とわに、大まな失敗であり、(美自身大いに反省してはいたが)いけないう事だということには良く自覚している。今回はリーダー会を開いたが、T. すべて(美の意思で)隊を動かした。それは良くない、T. の意見(水田、ヤハリ、おと回りの人間)の意見を聞くべきであった。それ以外も反省としては、途中で同部と話し合っていたつもりになってしまったり、入山前に山にむかいてマナーシヨンロフをしてしまった事、雪崩を3回誘発し、うち2回はセバロの事である。総合力の事はまだ悪い。

〈感想〉

長かった。長すぎた。ラトナりの遠征の登山期間が長かった。人間はこれほどまでに臭くはないかというのを自覚した。それによって精神的に強くなった。何かがおそえていておそくは、どんなに増していく……といった感じだった。美自身これほど長い縦走は初めてだし、今後、このような縦走はもうやらないだろう。もしやりにして今回の規模のものを12月、12月、12月に単独で行いたい。これだけ月数と人数を使えば今回の縦走はなにか誰かやってくれる。こんな程度で納得はいかないから、T. の今回の、田代に着いたはず、少しの満足感と大きな喜びを感じた。それは(2日)南アルプスの山は素晴らしい。積雪期に全3000m峰に立つことができた。どの山も個性的で雄大で忘れられない。光景から見ると、仙丈岳は今日の山行の最大の物語、というふうで頭の中を流れている。全ておぼえて良かった。ありがとう。

南ア縦走を終えて

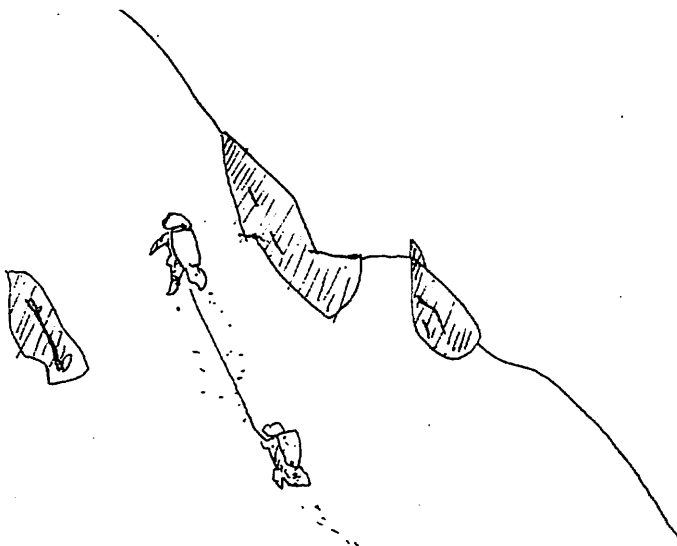
はらだりょうすけ

1年生の夏、縦走合宿で初めて南アルプスを歩いた。南部の森林帯で樹が大きかったことや、塩見で南部北部を見わたしたこと、赤石で日の出を見たことくらいしか憶えていない。あとはバテバテして歩くのがやっとだった。その南アルプスを冬にトレースできたことは、自分の成長を肌で感じられるので、とても感慨深い。

いつも“殊のある山登りをしたい”と考えてきた。上級生が足りなくて会のレベルも低迷する中で、「それでも変わったことをしたい」という気持ちから花谷とオノの間で1つの間にガニの計画がもち上がってきた。技術というよりは体力勝負であること、前後半に分ければ1年生1人に対し2人以上が1人つづること、色々な条件が会の状況やレベルに合わせていたといえる。

1月中南岸低気圧が続々と日本を通過して、根本でも大雪が降ったりして雪の量が心配だったがそれほどなく、悩まされたのは天気の変化の速さだった。4~5月かと思うほど暑い日があると思えば、雪がシンシンと降って冷えたり、雨が降ってビショ濡れになったかと思えば、下では雨が降っているのに上は晴れていたり、変な天気ばかり回された。今回は天気との戦いだったといえる。

今年はこんなカタチで春休みをほとんど縦走に費したが、冬山の基本は生活にあることをふまえて、今年得たものをふみ台にして来シーズンにはより高みをめざそう。

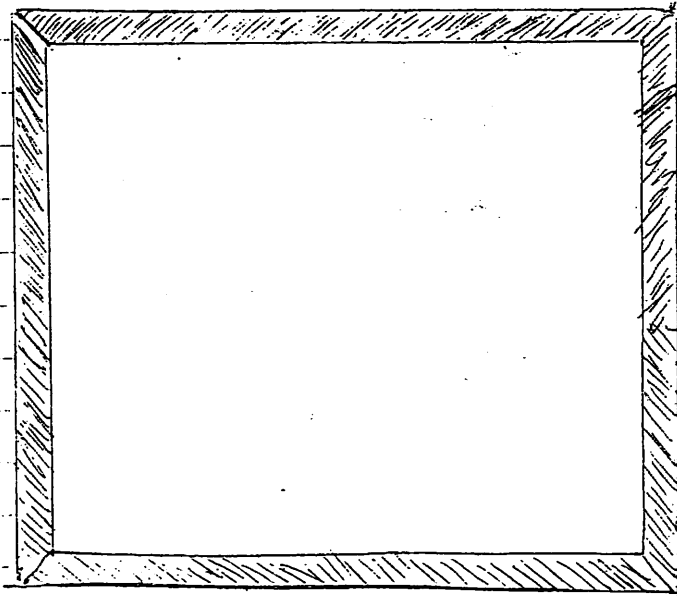


反省

運動不足、水か一番反省可。入山前は
毎朝バチンばかりやっていた。下界での生活が
山にたまたんたと思ふ。

感想

夏にも同じ所に行、たかやほは冬は
すばらしい。夏も好きなんだけど、冬は誰も
他に人がいないので、自分たちで、この山を、
この景色を一人じめて、水か一番かもし
れない。



荒川遊樂小屋に 木下平太郎

岡本

締切りを守らない

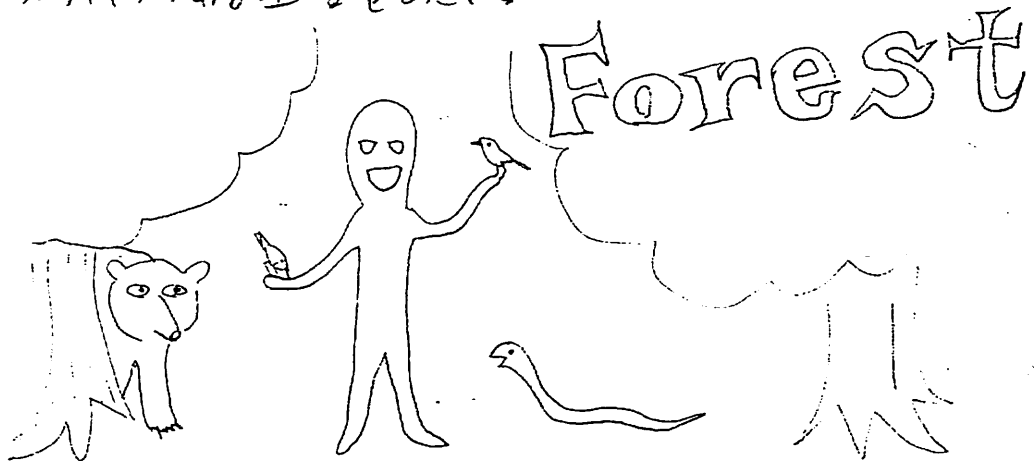
日高君^{さん}に変わって

編集長 岸本の独人自感。

最近僕は、マウンテンバイクを手に入れた。^{もと曰}先輩の4キヤマンの存のたが、長いこと乗ってないのを見て貸^りるといふ開^きで貰^らい受けた。チャリニコに詳しい野田さんにたのんで整備をし直し、タイヤもチューブも変えてこのチャリニコはよみがえった。手間をかけたたけあって妙に愛着が湧いたので名前をつけることにした。前まで乗っていたママチャリが「常念1号」た^たたのでコイツは「常念ターボ」にした。

トレーニングがてらに松本の色ん存戸所を走りまわっていると、新しい発見があって面白い。そのうち長野や伊那にでも行こうと思^っている今日この頃である。

今回の登山に対して僕の心はあまり安定していません。体力が低下している実感があったのに、このまま縦走をやり続けられるのか。車校がこのままでは3月中におられないかもしれないということも、決着をつけていたにもかかわらず、気にしてしまっていたと思う。このような気持ちで山に登るべきではなかった。でもお頭を打ってありてきしまった一番の原因は体力不足だった。この時期月になってこんなことを反省にするのは耻づかしいが、僕は山に登る体力をつけるために走るのいうのはどうしても好きになれない。僕のおこる山はヒマラヤ登山に代表されるような、ピークを極めるための山ではない。山の中にいることが好きなのだ。さらに言えば「森の中で生き物たちと触れ合うこと。それが僕が山に登る目的だ。しかしたがらといつて体力がなければそのような好きな登山もできない。伊那の家の近くには手頃な山があるので毎週末山に登ろうと思う。体力もつくし、毎週末森に入ることができる。そのかわり平日は思いっきり勉強をするつもりだ。メリハリのあつ生活をしたい。



石山脈 全山縦走感想

大木 信介

この事をやたらいい。うお、南ア全山縦走31日間、これをきいた
 人ばかりだ。しかし、自分には実感がわかん。
 可いしばゝのか、昨日の今日で自分が存在している感じだ。
 入山前、下山後の自分の差がよう分かん。違うのは経験値
 だけという気がする。ゲームのようにレベルアップしているのだろうが、やはり
 実感がわかん。2ヶ月経た今でもそうである。時の流れが
 解決してくれると思っていたが、2ヶ月や1年では何も分かん
 かもしれない。

自分は1年として参加し、ラッセルとがんばったもの、稜線など
 では花谷と亮介と上級生についてゆけただけであった。その為
 自分は山の本当の険しさを味わわず、楽しい部分だけを食べ、肥った
 のだろう。31日間、毎日が新鮮で楽しい、堪能した。しかし先に述べ
 た理由の為、自分はある種、もの足りなさを感じているのかもしれない。
 もちろん1年としての自分の仕事は上級生にならなくてもついていき、絶対に
 ミスをしないことだと思っていた。そう思いながらも樹林帯でルートファイン
 ディングをミスしたりしてしまい、いい経験にもなった。しかしやはり自分も
 稜線イトップを歩き、いろいろな判断を下してみせた。所謂自分
 ができるのは先輩を励ますことだけであった。

この縦走が終わり、自分は2年になった。これからほとんどFix隊に
 参加できる。そういう時に、たいてい肥太を使うのだろう。今回の縦走
 のすさまじい経験はこれから生きてくるのだと信じている。

感想

こう長い縦走だとは反省も感想も何を書けばいいのかわからぬ。全山縦走した喜びも素直に書けば一番いいのだらうが、それはそれで芸がない頃かす。だからといってマジメに反省から感想、今後の展望をこのまゝと書いて、三段ロケット式に堅苦しく書くのもアホらしい。「寒かった。」と書いて終わりにするのでもシンプルでいいが、なんと思っただけで、10年後位に読み返した時、絶対後悔すると思いやめにした。

普段からモノを書く習慣がないものだから、毎回、報告書の作成のためには、僕は四苦八苦する。当人の努力とは裏腹に出来上るのは駄文ばかりで、毎度の如く自分の文才のなさを呪う。僕は普段、日記などは全く書かない。でも何政か山に入っている間だけは専用の山日記を持ち歩き、毎夜、その日の行動記録を書き留め、マメに日記をつけている。今回の縦走も三日間の作業はサボらず続けた。書きたくない日も、たいして書く必要のない日も一応、何がしら書き留めた。内容は自分で言うのも存だがツマラナイ。今日のメシはうまいだが、今日ほどそこそこの屋敷たどりが無い。他の人の日記を見たことがないから確かには言えないが、もし松本市日記コンテストみたいなのがあったら間違いなく参加賞に終わるシロモノだと思ふ。

目下の所々存在意義すら危うい僕の山日記だが、自分でカメラを構えない僕にとってこの日記が唯一の記録であって、これを読み返した時に始めて、山から帰ったんだなと思ひ、しみじみ下山感というベキものを感ずるのである。

山から下りるともう3月で浦島太郎チックな山行だった。静岡駅ではすれちがうネーちゃんも皆、美人に見えるし、うがなった記憶がある。家の留守電にはノケ月分の伝言がギッシリと詰まっていた。聞けばなつかしい高松時代の友達の声で、無事大学に合格したとのこと。山から下りて聞く留守電は何政か楽しい。

縦走中はまた一年ホウズだ、たが、これを書いている今はもう2年生である。会社でいう「中間管理職」とゆうヤツだ。部下というが、一年生も入って、「さん」をつけて呼ばれるようになってしまった。仕事も色々任せて、仲々多忙を毎日だが、かえって充実している。最近岩ばかり登っている僕だが、もっとなんか思っている。今年も楽しくやっていきたい。

気が向いた時にちょくちょく書いて、た文存の中で全く脈絡のないものになつてしまつたが、まあよしとする。最後に縦走を影でさせてくれた人達に感謝しておわりとする。

岸本

-XTE-

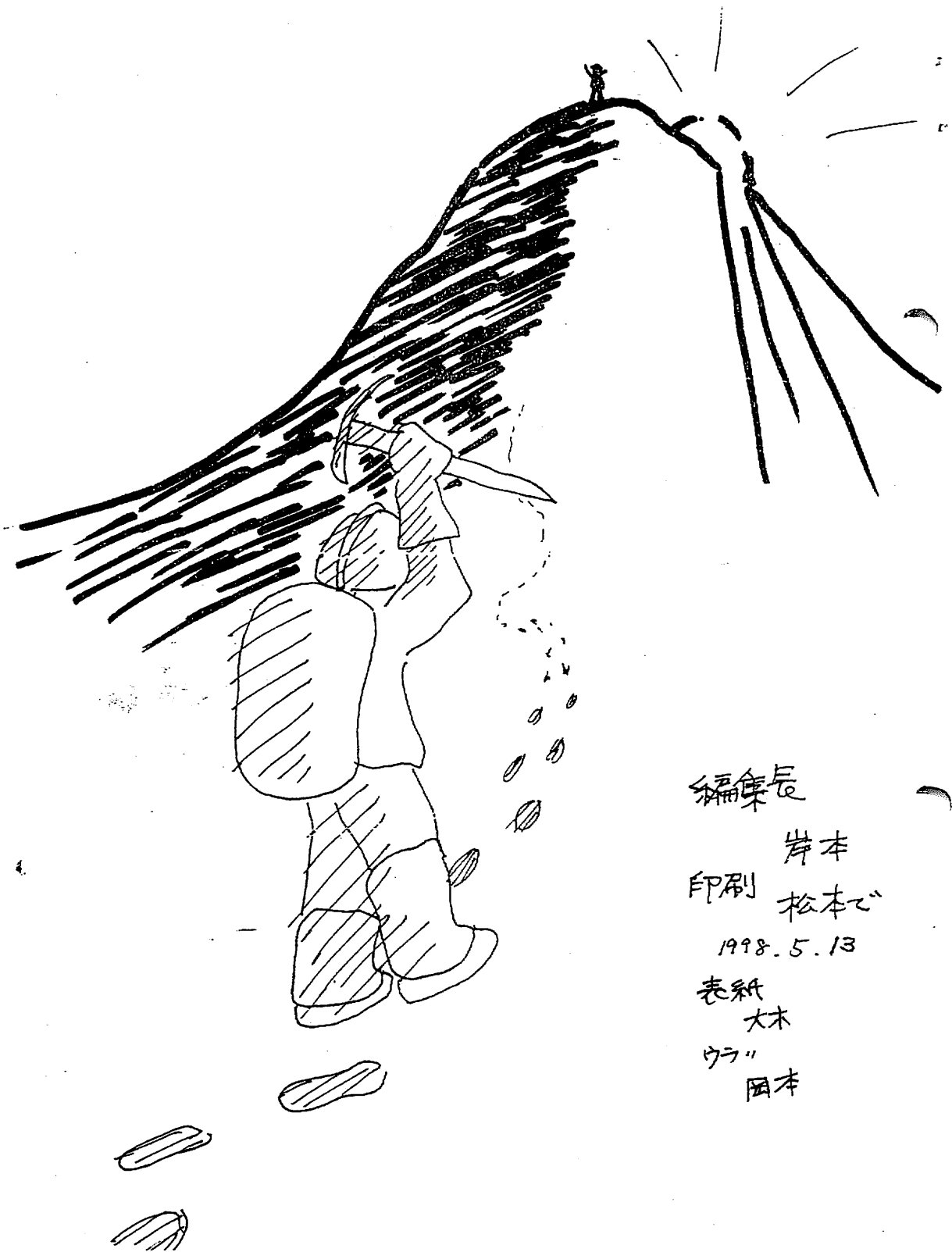
へんしゅう

こうき

- ・オレが編集長だ。(岸本)
- ・雨はやんだようだ (いよ)
- ・晴れてまた (田本)

締切り

は守れよな。



編集長

印刷 岸本 松本

1998.5.13

表紙 大木

ウラ 岡本